

研 究 分 野	漁場環境	部 名	浅海環境部
研 究 課 題 名	陸奥湾漁場保全対策基礎調査		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H. 1 9		
担 当	小野寺 陽子		
協 力 ・ 分 担 関 係	東北水研（栄養塩分析）		

〈目的〉

陸奥湾では、ホタテガイ養殖漁業を中心とした漁場利用が高度に進んでいるとともに、閉鎖性が強く海水交換が行われにくい海域であるために、漁場保全を図り、またホタテガイの生育環境を維持するためにも、長期的に監視することが必要とされている。本調査は、陸奥湾の漁場環境保全の基礎データを収集することを目的に 1979 年（昭和 54 年）から 4 年ごとに実施している。

〈試験研究方法〉

1 水質調査

- (1) 調査地点 陸奥湾内 20 定点
- (2) 調査日 平成 19 年 9 月 4、5、10 日
- (3) 調査方法及び項目

水色、透明度、水温、塩分、D0（溶存酸素）、COD（化学的酸素要求量）、栄養塩

2 底質調査

- (1) 調査地点 陸奥湾内 42 定点
- (2) 調査日 平成 19 年 8 月 27、28、29、30 日
- (3) 試料の採取方法及び項目

スミス・マッキンタイヤー採泥器（0.1 m²）で採泥後、0～2cm の深さの泥を採取し、粒度組成、COD、TS（全硫化物）、IL（強熱減量）フェオフィチンについて、分析した。

また、11 地点の底質について重金属（カドミウム、鉛、全水銀）調査を分析委託した。

3 底生生物調査（マクロベントス調査）

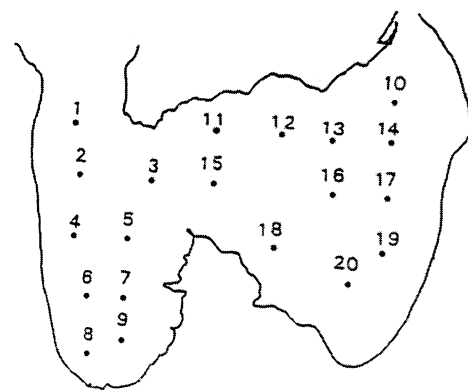
- (1) 調査地点 陸奥湾内 31 定点
- (2) 調査日 2 に同じ
- (3) 試料の採取方法及び項目

スミス・マッキンタイヤー採泥器（0.1 m²）で採泥後、1mm の篩で篩い分けた試料をホルマリン固定し、分析（マクロベントスの個体数、湿重量測定、種の同定、多様度指数）委託

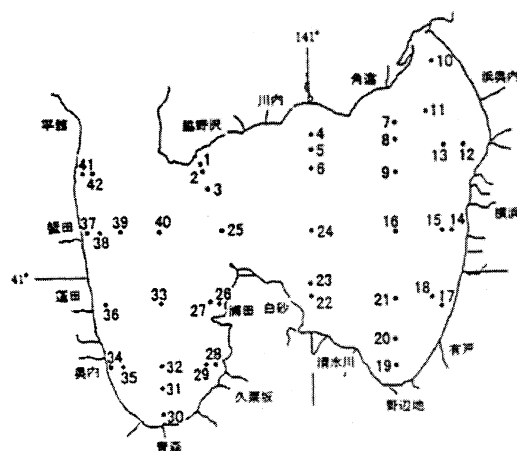
〈結果の概要・要約〉

底質の各項目は、前回の 2003 年に比べて IL が上昇、TS が減少、COD が上昇しているが、調査開始からほぼ安定して推移してきている。湾全体の平均生物個体群数は、前回よりも若干上昇したが、依然として個体数が少ない地点もあることから、今後も長期的、継続的なモニタリング調査が必要である。

なお、水質調査等については結果を取りまとめ中である。



水質調査地点



底質調査地点

〈主要成果の具体的なデータ〉

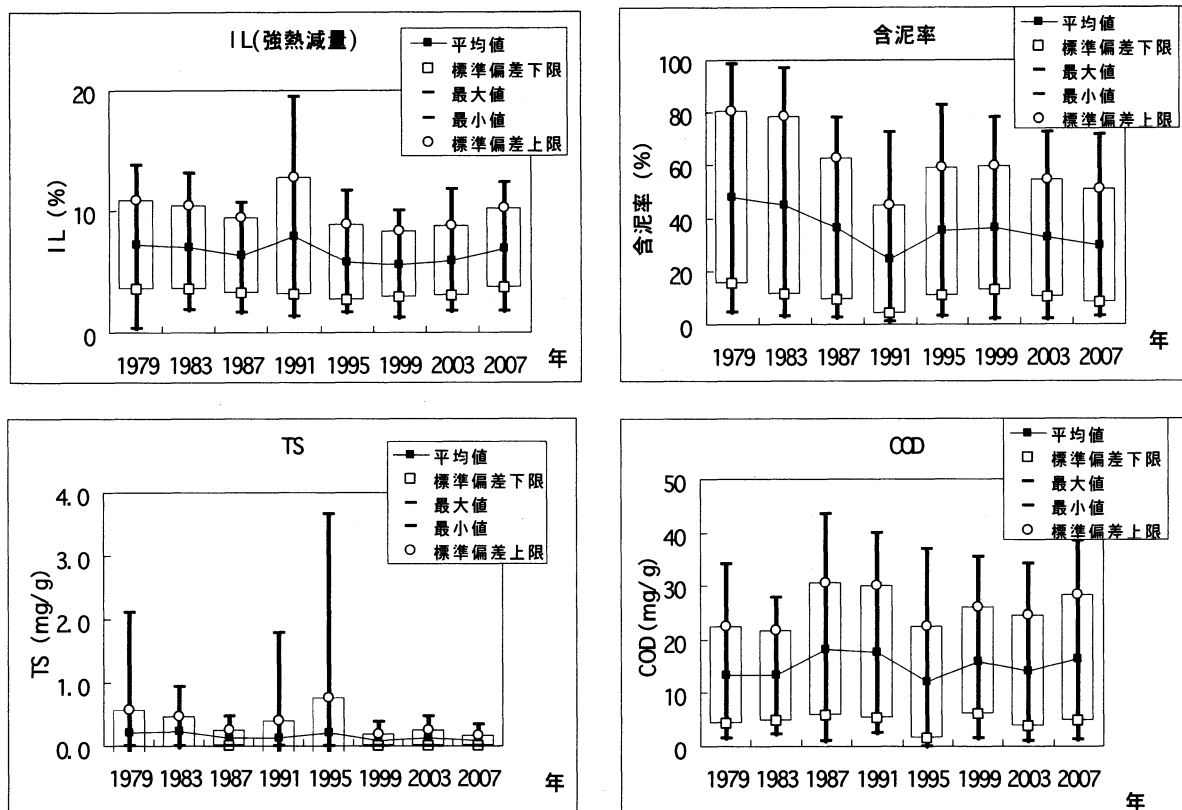


図 底質の経年変化

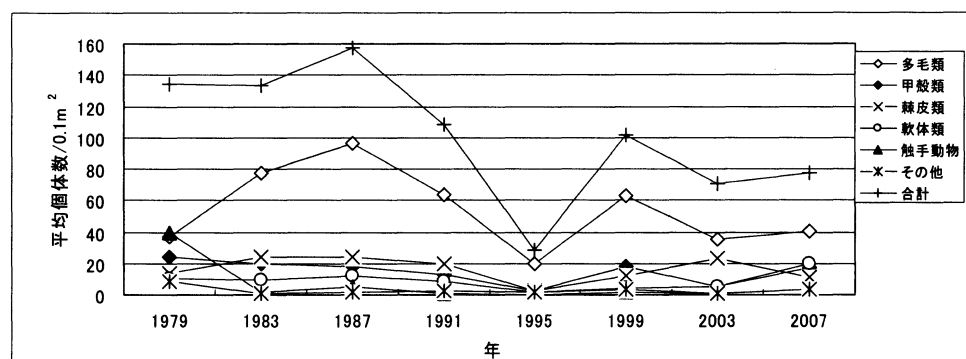


図 底生生物群の年別平均個体数 (31地点)

〈今後の問題点〉

湾全体の漁場環境の評価に必要な調査項目、解析手法の確立

〈次年度の具体的計画〉

4年後（平成23年度）に同様の調査を実施予定

〈結果の発表・活用状況等〉

同事業報告書を作成予定